

## スペイン語の学生の動機づけに関する調査

Arturo Varón

我々の研究グループは、スペイン語学科に2010年度に入学した学生を対象にそのモチベーションの変化を追跡する調査をこれまで行ってきた。対象学生たちが卒業を迎えるのに伴い、その調査も今年度をもって終了する。我々は2013年12月から2014年1月にかけて最後のアンケートを実施し、これまでのデータをもとに在学中に彼らのスペイン語学習へのモチベーションがどのように変化したかを分析・考察する予定である。

来年度から我々の研究グループは日本の大学生向けのスペイン語学習用テキストはどうあるべきかについての研究を行うこととなった。海外で出版されるテキストは、明らかに西洋文化圏の一般的な成人学生のことを考えて作られており、日本の大学生の学習環境や年齢、社会文化な事情や教育上の問題などは考慮されていない。我々の研究グループが言語センターで新しいプロジェクト

「スペイン語を専攻する学生のための教材研究」をスタートさせるのはこうした理由による。

大学に通う世代の学生にとってより自然なコミュニケーションの場面を設定し、その中でスペイン語の文法で学習したことと実践が適切な形で結びつけられるようにテキストを工夫していくことが必要である。しかし、我々の最終目標は単に言語を身に付けることではない。我々が目指すのは、学生が自分の将来のために次の3つの意味で言語学習の中心人物、すなわち、ヨーロッパ言語共通参照枠の概念を援用すれば、①言語の体系を知り、様々なシチュエーションでそれを使いこなす「社会的に行動する者／社会的主体 (social agent)」、②学習する言語の持つ文化的な要素を理解する「異文化間話者 (intercultural speaker)」、そして③大学が終了した後も自己の責任で自主的に学習を続ける「自律した学習者 (autonomous learner)」となることである。

新しいプロジェクトは、スペイン語学科の2年生向けの会話クラスのためのテキストを作成することから始まる。これが優先順位で一番上にあるのは、2年次がスペイン語学習にとって非常に重要な学年であるにも関わらず、それを指導するための適切なネイティブクラス用のテキストを見つ

けることが非常に困難であるからである。これまで行ってきた学生のモチベーションについての調査で得た経験やその分析結果はこの新しいプロジェクトにも十分に役立つことだろう。我々はこの新プロジェクトが学生にとっても教員にとっても実り多きものになることを期待している。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*